

プレス加工と溶接組付が中心の自動車部品製造業。最大9mmまでの厚板加工を得意とし、全量を自動車メーカーのティア1である豊田鉄工に納める。2020年12月にPMX-300トンプレス機を導入。今後の需要増大が見込まれる790級MPaハイテン材加工にも準備は万全だ。

豊田プレス工業株式会社

主要取引先は豊田鉄工

豊田プレス工業(株)は1949年に上野プレス合資会社として創業。直ちにトヨタ系のティア1メーカーの豊田鉄工(株)(旧拳母鉄工)との取引を開始。以来、70余年にわたりプレス加工と溶接組付の複合加工による自動車部品の生産を続け、今日に至っている。その間、1961年に早川プレス工業(株)と合併し、現在の所在地に豊田プレス工業を設立した。現社長の加古浩史氏は5代目で、2016年に社長に就任した。

TPSによるムダのない経営

主要取引先の豊田鉄工(以下、トヨタ)とは徒歩で10分の至近距離にあり、物心両面に渡って太いパイプを築き上げている。「トヨタさんには、長年にわたり製造や生産管理面でご指導をいただいています」と加古社長は話す。2000年にはカンバン方式に基づくTPS(トヨタ生産方式)を導入。人の経験や勘に頼る管理を行う中小製造業が多いなか、材料の入荷から生産、出荷まで、正確でムダのない管理が行われている。「これらは、自助努力だけではどうにもならなかったことであり、今でも長期に渡って指導員を派遣してくださったトヨタさんには、とても感謝しています」と加古社長。

▲ からくり治具(自社製作)



▲ PMX-300トン